

第2章

統計から見たい

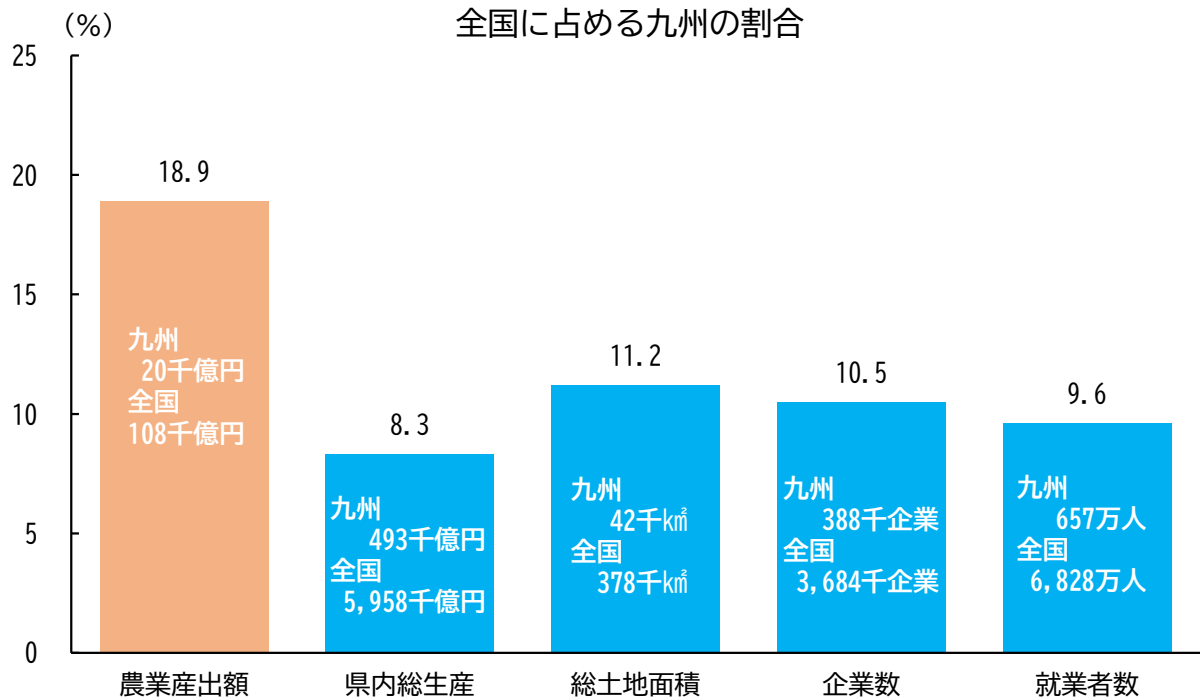


構造 — 九州農業の特徴 —

【九州は日本の食料基地】

農業が盛んな九州は日本の食料供給基地となっており、「全国の1割経済」といわれている中、農業産出額では全国の2割を占めています。

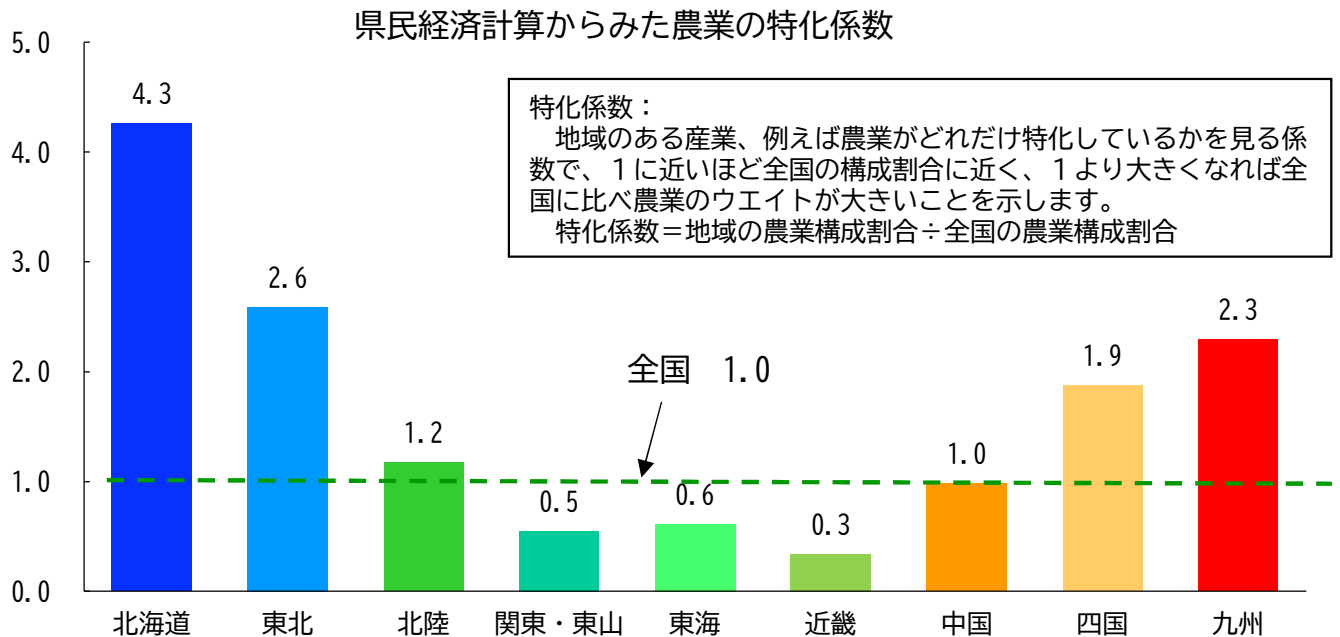
また、県民経済計算(県内総生産)の産業別割合から計算した特化係数をみると、九州は全国の中でも農業のウェイトが大きい地域であることが分かります。



資料：農林水産省「令和6年生産農業所得統計」、内閣府「令和4年県民経済計算」
 国土地理院「令和8年全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「令和3年経済センサス活動調査」
 総務省統計局「令和7年労働力調査」

注：1 農業産出額は、都道府県別の品目ごとの生産量に、品目ごとの農家庭先販売価格（消費税を含む。）を乗じて求めたもの。なお、農業産出額の全国は都道府県計。

2 県内総生産の全国は全県計（都道府県計）。



特化係数：

地域のある産業、例えば農業がどれだけ特化しているかを見る係数で、1に近いほど全国の構成割合に近く、1より大きくなれば全国に比べ農業のウェイトが大きいことを示します。

特化係数＝地域の農業構成割合÷全国の農業構成割合

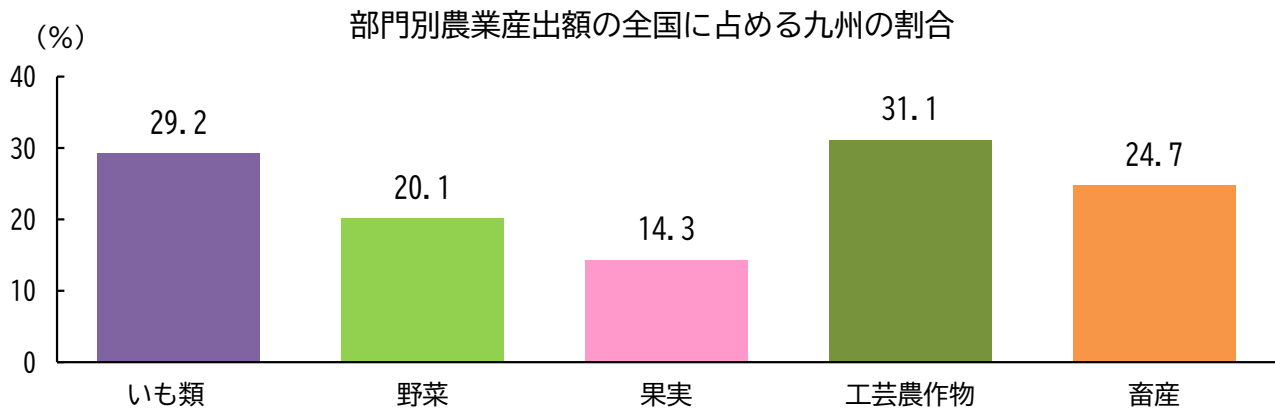
資料：内閣府「令和4年県民経済計算」

注：関東・東山は、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨、長野です。

【野菜、畜産などの全国上位を占める】

部門別農業産出額の全国に占める九州の割合をみると、いも類、工芸農作物では約3割、畜産、野菜では約2割を占めています。

また、みかんやしらぬい(デコポン)など果実の生産も盛んです。



主な品目別農業産出額の全国に占める九州の割合

単位：億円、%

部 門 ・ 品 目 名		令和6（2024）年			九州における1位		
		実額（億円）		全 国 シェア (%)	県 名	実 額 (億円)	全 国 シェア (%)
		全 国	九 州				
いも類	か ん し ょ	1,107	384	34.7	鹿 児 島	223	20.1
	ば れ い し ょ	1,311	324	24.7	長 崎	158	12.1
野 菜	ト マ ト	2,442	666	27.3	熊 本	437	17.9
	い ち ご	2,144	703	32.8	福 岡	233	10.9
	き ゅ う り	1,598	392	24.5	宮 崎	208	13.0
	な す	880	210	23.9	熊 本	116	13.2
	メ ロ ン	707	154	21.8	熊 本	126	17.8
	ピ ー マ ン	668	226	33.8	宮 崎	119	17.8
	す い か	666	158	23.7	熊 本	126	18.9
果 実	み か ん	1,877	559	29.8	熊 本	207	11.0
	しらぬい(デコポン)	168	118	70.2	熊 本	83	49.4
	キウイフルーツ	111	29	26.1	福 岡	17	15.3
	マ ン ゴ ー	91	63	69.2	宮 崎	50	54.9
	な つ み か ん	44	31	70.5	鹿 児 島	20	45.5
工芸農作物	茶（生葉）	442	219	49.5	鹿 児 島	157	35.5
	さとうきび	341	137	40.2	鹿 児 島	137	40.2
	葉たばこ	177	95	53.7	熊 本	39	22.0
畜 産	肉 用 牛	7,860	3,064	39.0	鹿 児 島	1,192	15.2
	豚	7,629	2,183	28.6	鹿 児 島	912	12.0
	ブ ロ イ ラ ー	4,259	2,165	50.8	鹿 児 島	1,054	24.7

資料：農林水産省「令和6年生産農業所得統計」

構造 — 農業産出額 —

【農業産出額は対前年比6.3%の増加】

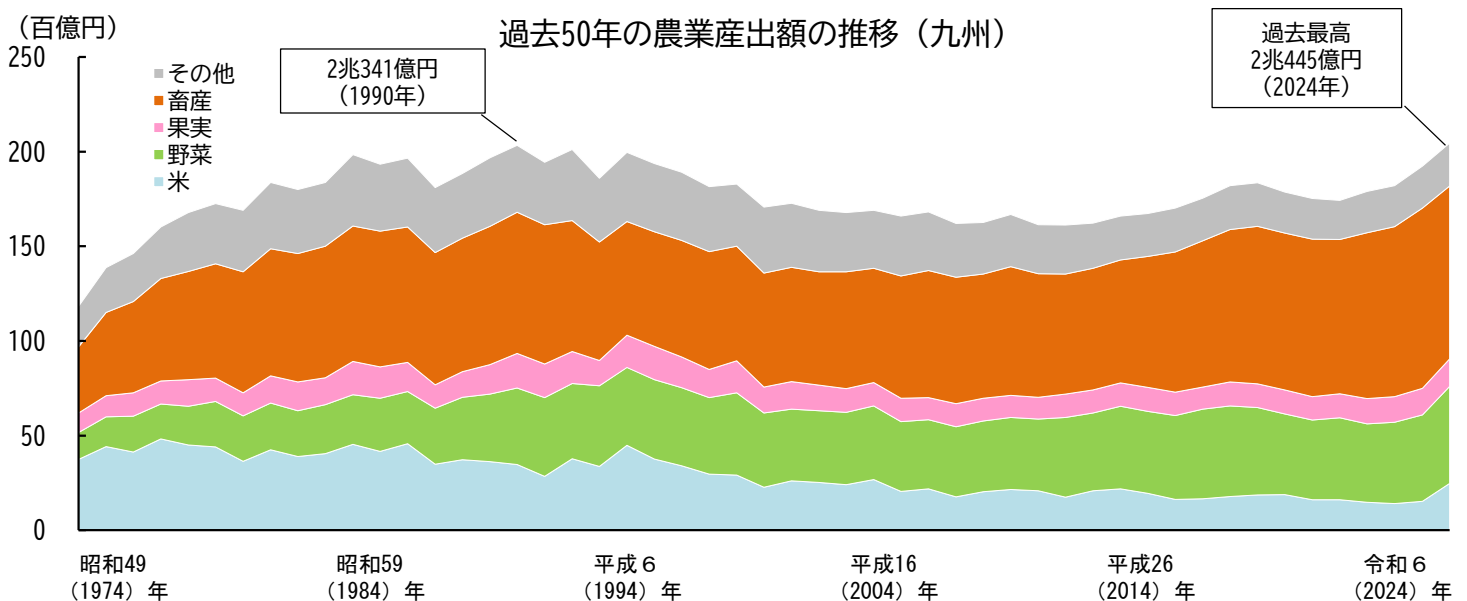
令和6(2024)年の九州の農業産出額は、米や野菜の価格上昇などの影響により、前年に比べ1,219億円(6.3%)増加し、2兆445億円となり過去最高を更新しました。

過去50年間の農業産出額の推移をみると、平成2(1990)年の2兆341億円をピークに緩やかな減少傾向が続いていたものの、野菜や畜産などを中心に平成23(2011)年から7年連続で増加しました。その後、平成30(2018)年から再び減少に転じ、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う需要変動や価格の低下などが影響したものの、令和3(2021)年には畜産の需要が回復し、以降は4年連続で増加しています。

農業産出額（九州）

区 分	令和5（2023）年		令和6（2024）年		対 前 年 増 減 率
	実 額	構成割合	実 額	構成割合	
農 業 産 出 額	億円	%	億円	%	%
農 業 産 出 額	19,226	100.0	20,445	100.0	6.3
耕 種 計	9,557	49.7	11,144	54.5	16.6
うち 米	1,518	7.9	2,466	12.1	62.5
い も 類	602	3.1	707	3.5	17.4
野 菜	4,569	23.8	5,139	25.1	12.5
果 実	1,413	7.3	1,443	7.1	2.1
花 き	698	3.6	675	3.3	△ 3.3
工 芸 農 作 物	485	2.5	490	2.4	1.0
畜 産 計	9,511	49.5	9,139	44.7	△ 3.9
うち 肉 用 牛	3,072	16.0	3,064	15.0	△ 0.3
乳 用 牛	781	4.1	814	4.0	4.2
豚	2,147	11.2	2,183	10.7	1.7
鶏	3,462	18.0	3,036	14.8	△ 12.3
うち 鶏 卵	1,037	5.4	725	3.5	△ 30.1
ブ ロ イ ラ ー	2,282	11.9	2,165	10.6	△ 5.1
加 工 農 産 物	158	0.8	162	0.8	2.5

資料：農林水産省「生産農業所得統計」



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

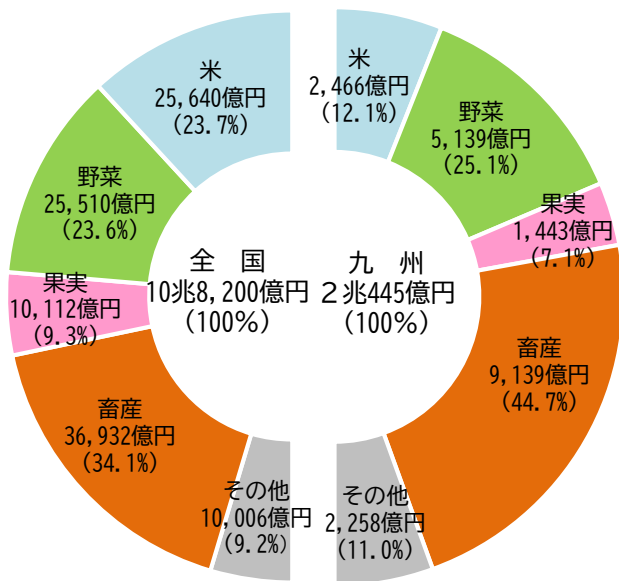
【畜産や野菜が盛ん】

令和6(2024)年の農業産出額の部門別構成割合をみると、九州は全国に比べて米の割合が低く(全国23.7%、九州12.1%)、畜産の割合が高い(全国34.1%、九州44.7%)ことが特徴です。

50年前の昭和49(1974)年と比較すると、九州では米の割合が31.7%から12.1%へ縮小した一方、野菜は12.0%から25.1%へ、畜産は30.7%から44.7%へと拡大しています。これにより、米を中心とした農業から、野菜や畜産を中心とした農業へと推移していることが分かります。

こうした多様な品目への展開が進んだ結果、現在、九州では野菜や畜産の生産が盛んな鹿児島県、熊本県、宮崎県の3県が、全国順位10位以内に位置しています。

農業産出額部門別構成割合の比較（全国・九州）
（令和6（2024）年）



資料：農林水産省「令和6年生産農業所得統計」

注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。

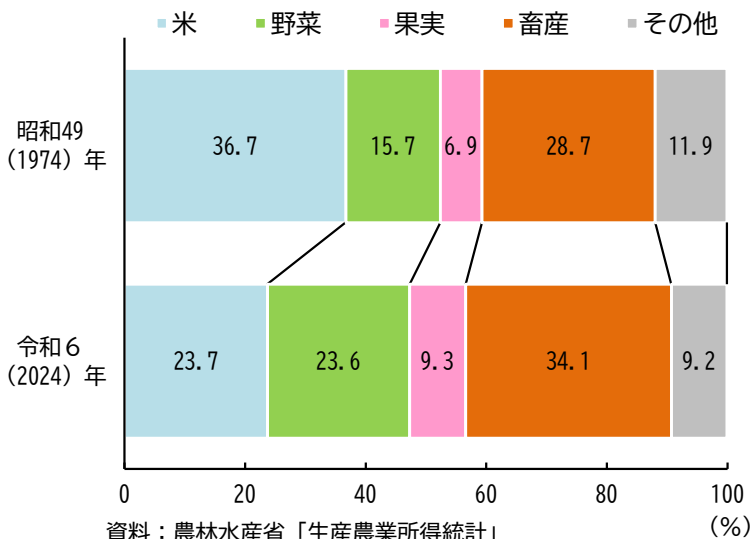
農業産出額全国上位10県の推移

単位：億円

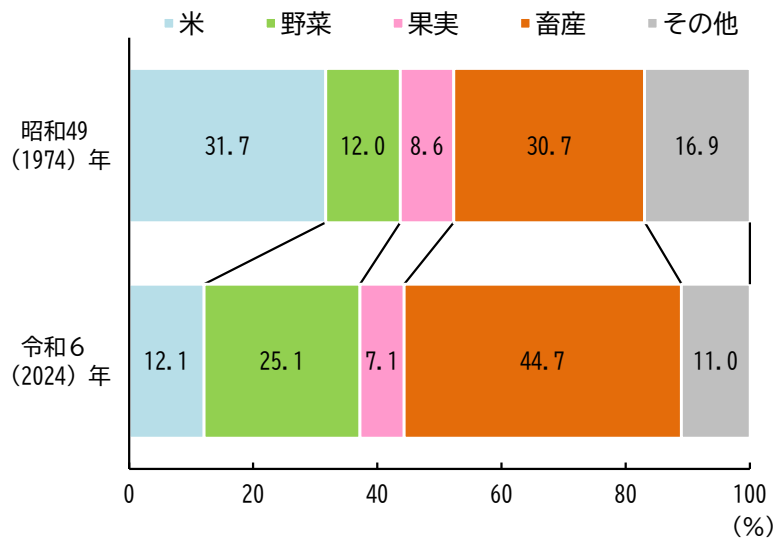
全国 順位	昭和49（1974）年		令和6（2024）年	
	都道府県名	農業産出額	都道府県名	農業産出額
1位	北海道	6,049	北海道	14,817
2位	茨城	3,374	鹿児島	5,689
3位	千葉	3,224	茨城	5,494
4位	新潟	2,793	千葉	4,533
5位	福島	2,525	青森	4,119
6位	熊本	2,498	熊本	4,116
7位	長野	2,402	宮崎	3,725
8位	愛知	2,400	愛知	3,551
9位	静岡	2,367	栃木	3,448
10位	青森	2,338	岩手	3,269

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

50年前の農業産出額の部門別構成割合との比較（全国・九州）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」



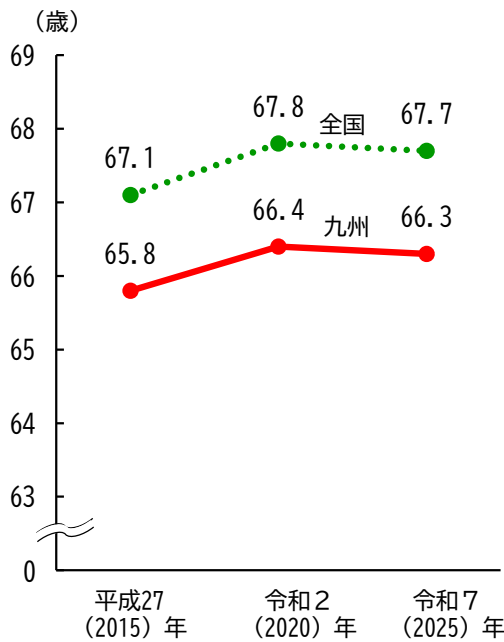
構造 — 農業経営体 —

【農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合は全国を上回る】

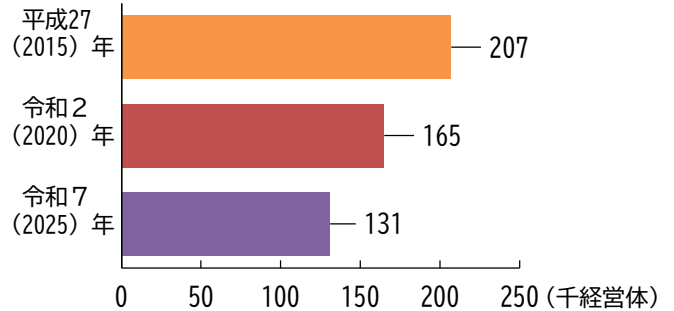
令和7(2025)年の九州における基幹的農業従事者の平均年齢は全国に比べ1.4歳若くなっていますが、平均年齢は66歳を超え、農業者の高齢化が進んでいます。また、農業経営体数は131千経営体であり、10年前に比べて約4割減少しましたが、法人化している経営体は1,023経営体(21%)増加しています。

また、九州各県では農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合が増加しており、佐賀県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県が全国平均を上回っています。

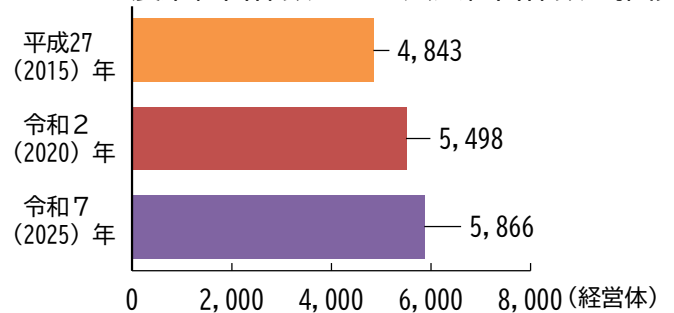
基幹的農業従事者平均年齢



農業経営体数の推移



農業経営体数のうち法人経営体数の推移



資料：農林水産省「農林業センサス」

注：基幹的農業従事者

15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者をいう。

基幹的農業従事者平均年齢

平成27(2015)年は販売農家の数値、令和2(2020)年、令和7(2025)年は個人経営体の数値。

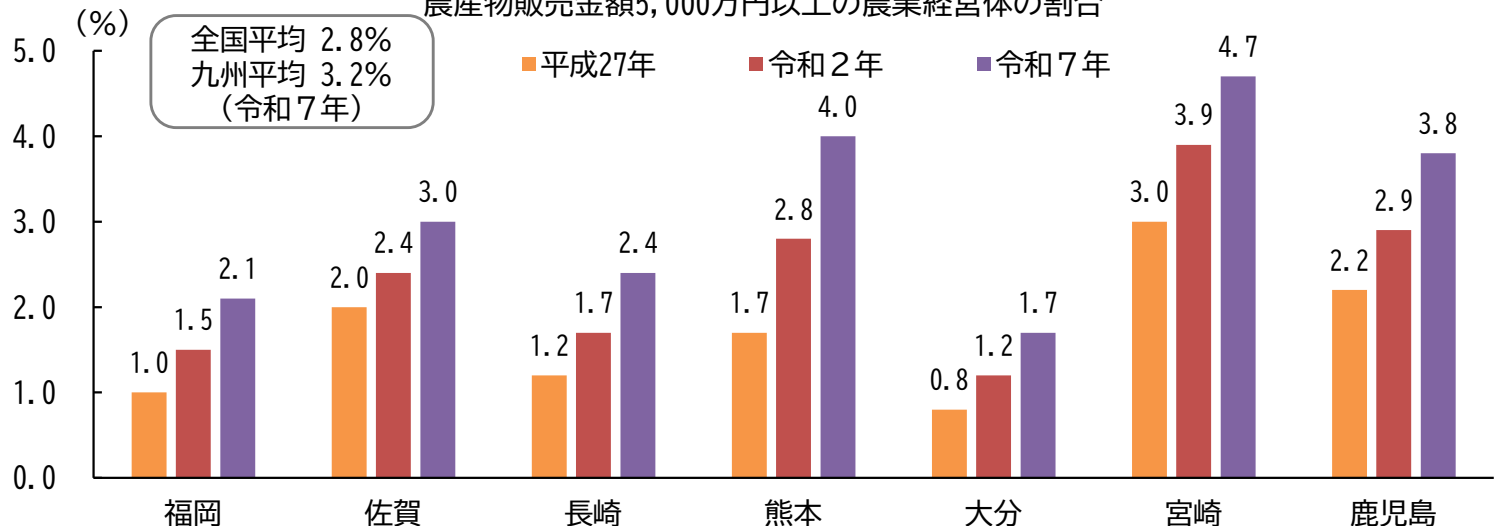
農業経営体

経営耕地面積が30a以上の規模の農業、又は販売金額50万円以上に相当する規模の農業を行う者（農作業の受託を含む。）。

法人経営体

農業経営体のうち、法人化して事業を行う者。

農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合



資料：農林水産省「農林業センサス」

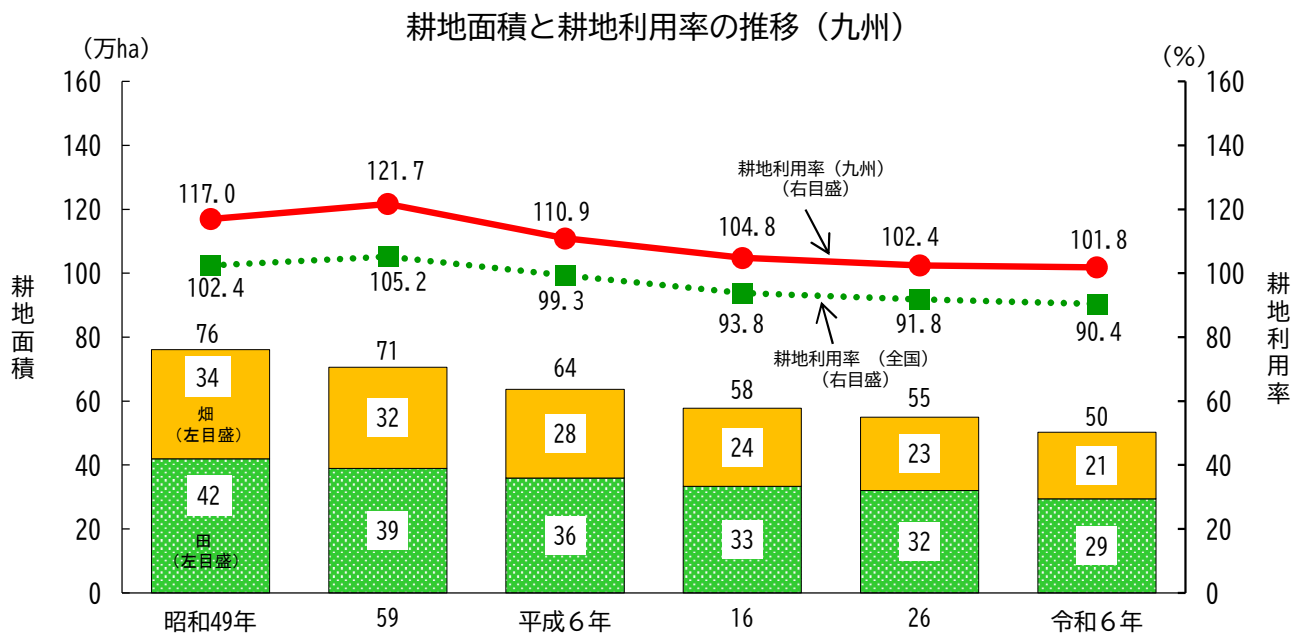
構造 — 耕地面積 —

【耕地面積は50万2,400ha、耕地利用率は101.8%】

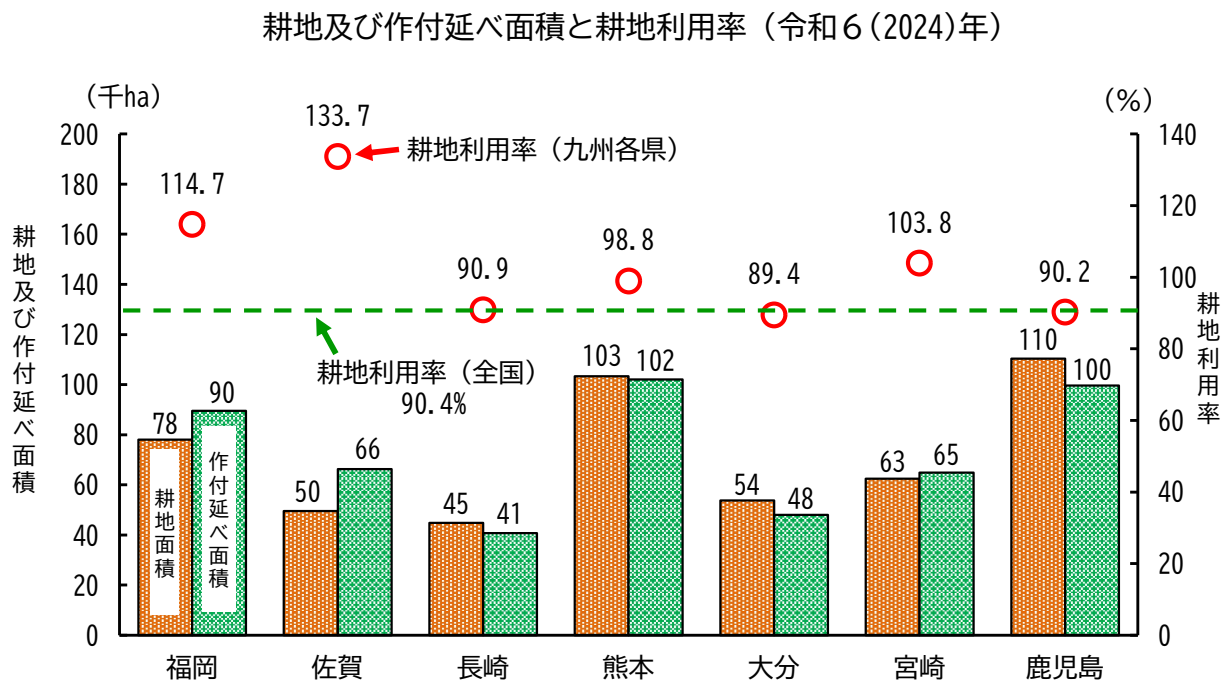
令和6(2024)年の九州の耕地面積は、全国(427万ha)の約1割を占めています。

生産者の高齢化による荒廃農地の増加、宅地や道路への転用等により、平成6(1994)年から約14万ha減少しています。

耕地利用率は全国平均90.4%を上回る101.8%となっています。特に、福岡県、佐賀県では水田を活用した裏作(麦)が行われ、宮崎県では飼料作物の作付けが年間複数回行われることから100%を上回っています。



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」